

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

[アバディーン・スタンダード・ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンドBコース（為替ヘッジなし）は、2019年12月10日に第42期の決算を行いました。

当ファンドは、世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資します。原則として為替ヘッジを行いません。当期も方針に沿った運用を行いました。ここに運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも引続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

# [アバディーン・スタンダード・ ファンド・セレクション] 海外高格付け債ファンド

Bコース：為替ヘッジなし

追加型投信／海外／債券

## 交付運用報告書

第42期

決算日：2019年12月10日

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

本書記載事項以外の詳細な内容を記載した運用報告書（全体版）は当社ホームページ（右記アドレス）でご覧いただけます。

書面での交付をご希望の場合には、販売会社を通じて交付いたします。

右記ホームページの上部にある「ファンド一覧」から、ページの中ほどにある「ファンド関連資料」を選択することによりファンド名が表示され、当ファンドの運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

第42期末 (2019年12月10日)	
基準価額	12,606円
純資産総額	2,765百万円
作成対象期間 (2019年6月11日～2019年12月10日)	
騰落率 (分配金（税引前）再投資後)	0.7%
分配金（税引前）	50円

(注) 騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## アバディーン・スタンダード・インベストメンツ株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2  
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ9階  
お問い合わせ窓口 03-4578-2251

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。)

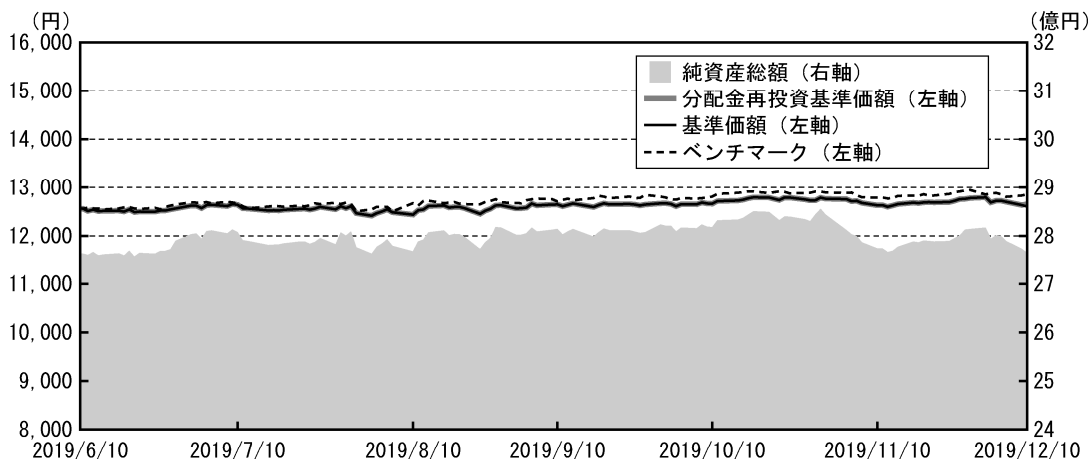
インターネット・ホームページ

<http://www.aberdeenstandard.com/japan>

## ●運用経過

### 当期中の基準価額等の推移について

ファンド	当ファンドは第42期の決算を迎え、基準価額は前期末の12,562円から当期末には分配金50円込みで12,656円、値上がり額は94円、当期の騰落率は0.7%の上昇となりました。
ベンチマーク	ベンチマークであるF T S E世界国債インデックス（除く日本/円ベース）の騰落率は2.3%の上昇となり、当ファンドの騰落率はこれを1.6%下回りました。



- (注1) ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標）は、『F T S E世界国債インデックス（除く日本/円ベース）』です。ベンチマークは、基準価額への反映を考慮して基準日前営業日の終値を採用し、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

第42期首	12,562円
第42期末	12,656円（既払分配金（税引前）50円）
騰落率	0.7%（分配金（税引前）再投資ベース）

## 基準価額の主な変動要因

上昇要因	世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資し、米国の利下げ再開もあって世界的に利回りが低下し、基準価額は上昇しました。
下落要因	米中の通商摩擦への落ち着きからリスク回避の円高が終わり、米ドル高、ユーロ安となって為替は概ね基準価額に中立でした。

## 1万口当たりの費用明細

項目	第42期 (2019年6月11日～ 2019年12月10日)		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
平均基準価額	12,667	—	期中の平均基準価額です。
信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	87 ( 42) ( 42) ( 3)	0.688 (0.332) (0.332) (0.024)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料 (先物・オプション)	1 ( 1)	0.008 (0.008)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	2 ( 1) ( 1) ( 0)	0.017 (0.008) (0.008) (0.001)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンド監査に係る費用
合計	90	0.713	

(注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

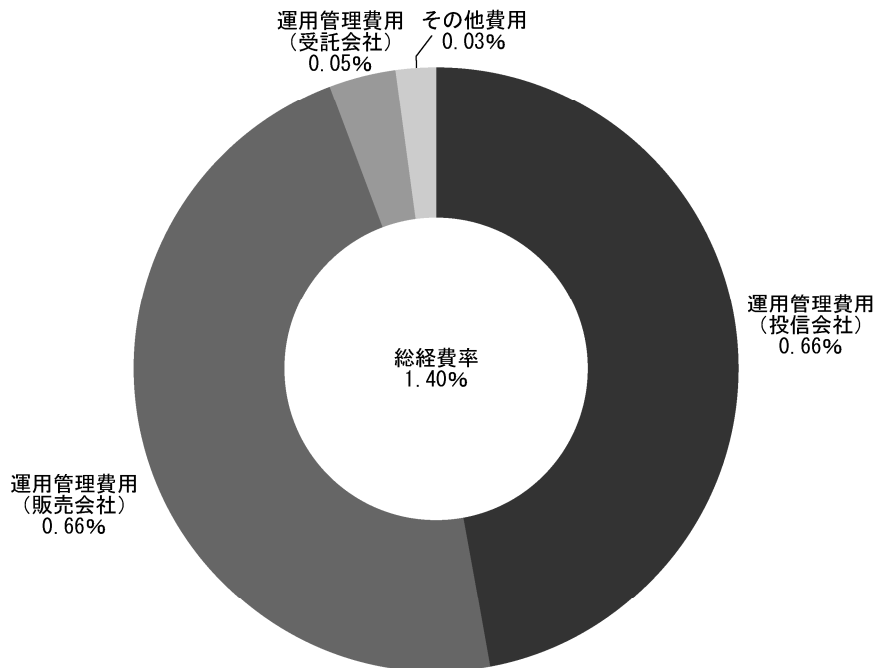
(注3) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まれます。

(注4) 項目毎に円未満は四捨五入し、単位未満は0円と表示しています。

(参考情報)

**総経費率**

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.40%です。



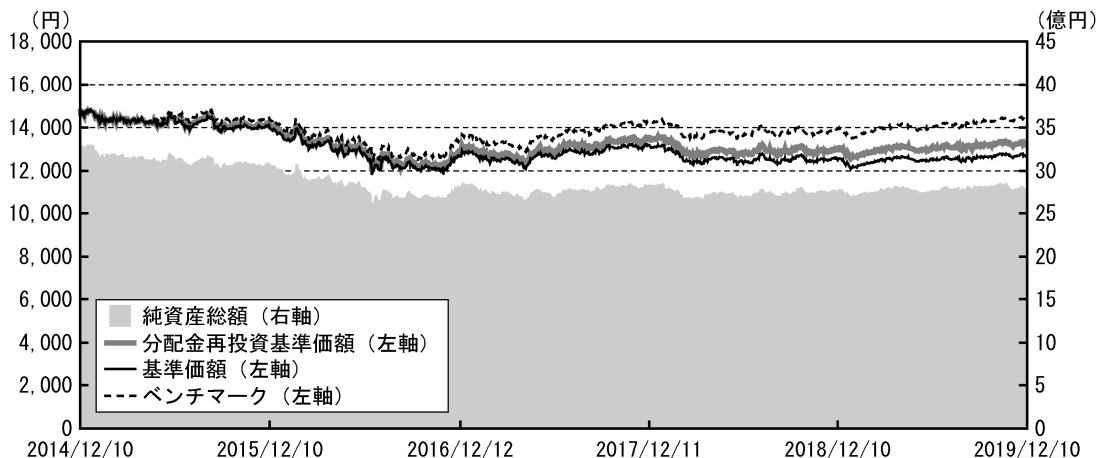
(注1) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



- (注1) ベンチマーク (ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標) は、『F T S E 世界国債インデックス (除く日本/円ベース)』です。ベンチマークは、基準価額への反映を考慮して基準日前営業日の終値を採用し、2014年12月10日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

## 最近5年間の年間騰落率

決算日	2014年12月10日	2015年12月10日	2016年12月12日	2017年12月11日	2018年12月10日	2019年12月10日
分配落ち基準価額 (円)	14,701	13,956	12,677	13,170	12,496	12,606
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	140	100	130	130	100
分配金再投資基準価額騰落率	—	△4.1%	△8.4%	4.9%	△4.1%	1.7%
ベンチマーク騰落率	—	△2.3%	△6.3%	6.4%	△2.7%	3.2%
純資産総額 (百万円)	3,275	3,065	2,806	2,824	2,744	2,765

## 投資環境について

2019年6月の債券市場は、米連邦公開市場委員会（FOMC）が金融政策方針を緩和方向に転換し、早期利下げ観測が強まりました。欧州中央銀行（ECB）も早期利下げ観測が強まったことからドイツでも低下しました。

7月は、米国では月末のFOMC利下げは小幅にとどまるとの観測から金利は上昇に転じるなど、もみ合いの展開となりました。ECBが金融緩和姿勢を強めたことで、欧州の金利は低下しました。

8月は、米中の貿易摩擦激化による景気減速懸念が強まり、安全資産が買い進められました。他の先進国に比べ、相対的に金利が高いことも米国債への選好を高めました。ユーロ圏では景気減速感を強め、ECBへの追加緩和期待が一段と高まりました。

9月は、緩和策の拡大にもかかわらず、債券を売って株式を買う動きが広がり、概ね上昇しました。英国中央銀行は予想通り政策金利の据え置きを決定し、併せて英経済は徐々に潜在成長率を下回る状態になりつつあるとの見方を示しました。

10月は、米連邦準備理事会（FRB）が緩和的政策を継続したことを確認し、米国では利回りはほぼ変わりませんでした。欧州では英国の合意なき欧州連合（EU）離脱リスクが後退したことから市場心理が改善し、やや利回りは上昇しました。

11月は、米経済指標が個人消費を中心に堅調さを示すなどリスク選好の姿勢が強まり、債券は世界的に売りが優勢となりました。英国でも、秩序ある欧州連合離脱の可能性が高まり金利は上昇しました。

また、2019年6月の為替では、月初は底堅く推移していましたが、米国の早期利下げ観測から米ドル安傾向が強まり、月末には1米ドル=107円後半まで米ドルは下落しました。一方でユーロ高となり、月末には1ユーロ=122円中盤まで上昇しました。

7月は、米中首脳会談で通商協議の再開が合意されたことから投資家のリスク選好姿勢が強まり、米ドル高に転じ月末には1米ドル=108円台後半となりました。一方で、早期緩和の示唆からユーロ売りが加速し、月末には1ユーロ=120円半ばまで弱含みました。

8月は、前月末に比べ2円50銭程度円高・米ドル安の1米ドル=106円前半となりました。ユーロ圏景気の弱さ、英国のEU離脱問題等の政情不安により、ユーロ売りも加速しました。

9月は、円がほぼ全通貨に対して安くなり、米ドルは1円80銭程度米ドル高の1米ドル=108円台前半、ユーロは1円程度高い117円台後半での引けとなりました。

10月は、ユーロ域内景気は依然として弱いものの、英国の秩序あるEU離脱への期待が強まり、ユーロは円と米ドルに対して大きく上昇し、1ユーロ=120円台半ばとなりました。

11月は、前月末に比べ1円50銭程度、米ドル高・円安の1米ドル=109円台半ばでの引けとなりました。依然、潜在成長率を下回る低成長は変わらず、ユーロは対米ドルでは弱含みました。

## ポートフォリオについて

当ファンドは、期中を通じてF S海外高格付け債マザーファンドへの投資比率を高位に保ち、実質的な運用は同ファンドで行いました。種別別配分は9割以上をソブリン債、それ以外を事業債としましたが、期初には4.7%あった事業債を、期末には1.0%弱にまで低下させています。利回りを求める投資家の需要が高く、値上がりした段階で売却をすすめました。

通貨配分は、米ドルのオーバーウェイト、ユーロのややアンダーウェイトを継続しました。また、ユーロの代替として非ベンチマーク通貨ながらスイス・フランを保有しています。米ドル圏のうち、米国公債からニュージーランド国債へ切り替えたことで、ニュージーランド・ドルの保有に転じました。

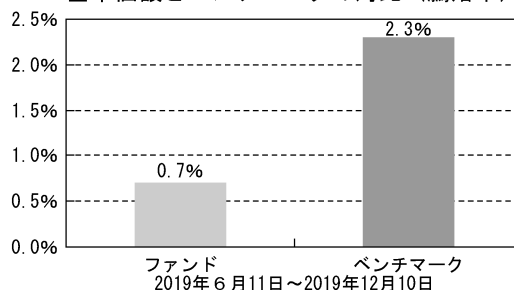
地域／国別配分は、引き続きノルウェーの国債をオーバーウェイトし、非ベンチマーク対象国でありながら高い利回りや高格付けが魅力のニュージーランド国債への投資を再開しました。

修正デュレーションは、ポートフォリオ全体では期初にほぼ中立だった7.35年の修正デュレーションから、期末には7.91年とベンチマークを超える水準まで長期化されました。

## ベンチマークとの差異について

ベンチマークであるF T S E世界国債インデックス（除く日本／円ベース）の騰落率は2.3%の上昇となり、当ファンドの騰落率はこれを1.6%下回りました。主なプラス要因は、利回り低下の大きかった米国でやや高めのデュレーションがプラス寄与となりました。一方で主なマイナス要因は、オーストリアおよびベルギーは長期国債への投資を始めましたが、タイミングをやや失いました。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



## 分配金について

基準価額の水準等を勘案し、当期末に50円（税引前）の収益金を支払いました。なお収益分配に充てなかった利益は信託財産に留保し留保金の運用については特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

## 分配原資の内訳

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

	第42期 (2019年6月11日～2019年12月10日)
当期分配金	50
（対基準価額比率）	0.395%
当期の収益	50
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,268

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」（税引前）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## ●今後の運用方針について

F S 海外高格付け債マザーファンド受益証券を通じて、今後とも当ベビーファンドにおいて外国公社債等への高い組入比率を維持する予定です。

低金利が世界的に続く環境下で、同マザーファンドにおいては運用基本方針に従い、為替や金利水準を見極めながら、各種の投資ウェイトをユーロ圏地域と、米国を中心とした地域で概ねベンチマークに対し中立とし、地域内において調整していく予定です。修正デュレーションについては地域間でのバランスを取りつつ、ポートフォリオ全体としてベンチマーク比で中立水準としていく方針です。

なお、一時的に金利や為替が大きく変動する局面では、地域配分やデュレーション調整のため国債先物、為替予約等を活用して短期的なポジションを構築し、超過収益の獲得を目指します。

## ●お知らせ

該当事項はありません。



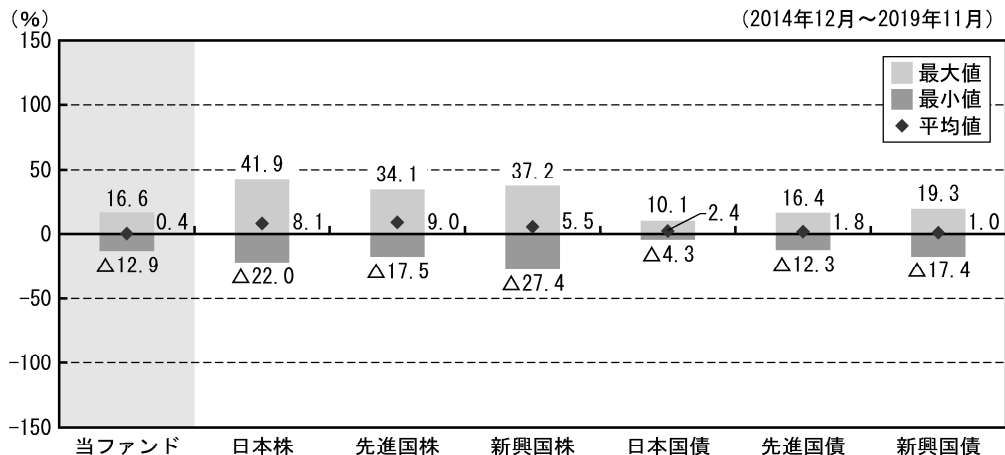
## ●当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資します。原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）	F S 海外高格付け債マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	F S 海外高格付け債マザーファンド	日本を除く先進主要国の各種投資適格債（「BBB-」格以上の債券）を主要投資対象とします。
当ファンドの運用方法	海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）	マザーファンド受益証券の組入れには制限を設けません。
	F S 海外高格付け債マザーファンド	①外貨建資産の投資割合には制限を設けません。 ②株式への投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	毎決算時（原則として毎年6月10日および12月10日）に、経費控除後の利子等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額の水準等を勘案して分配を行います。ただし、分配金は税金を差引いた後、自動的に全額再投資されます。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

## ● 参考情報

### 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



\*2014年12月～2019年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンド及び代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したとみなす分配金再投資基準価額により計算され、実際の基準価額に基づく騰落率とは異なる場合があります。騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

\*各資産クラスの指数

- 日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
- 先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)
- 新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)
- 日本国債・・・FTSE 日本国債インデックス
- 先進国債・・・FTSE 世界国債インデックス (除く日本・円ベース)
- 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)

注：海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

### 「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- 「東証株価指数 (TOPIX)」に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、「TOPIX」の算出もしくは公表の停止または「TOPIX」の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- 「MSCI コクサイ・インデックス」および「MSCI エマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「FTSE 日本国債インデックス」および「FTSE 世界国債インデックス (除く日本・円ベース)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)」とは、J.P.Morgan Securities Inc. が算出し公表している指数です。当指数の著作権は、J.P.Morgan Securities Inc. に帰属します。

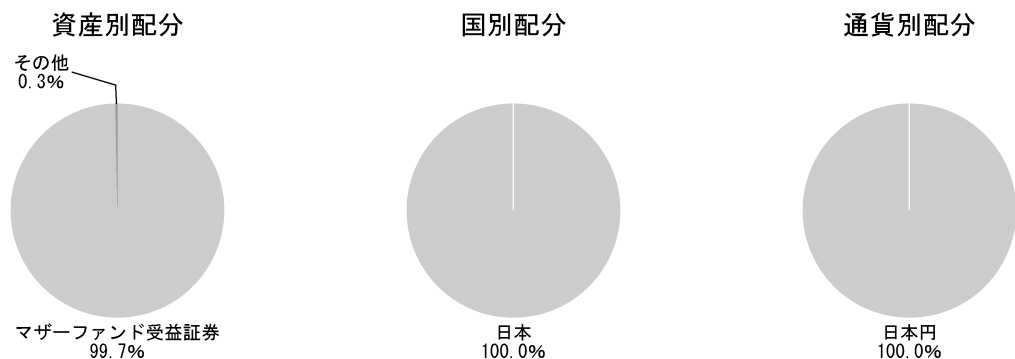
## ● ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

#### 組入ファンド

海外高格付け債ファンド Bコース（為替ヘッジなし）	比率%
F S 海外高格付け債マザーファンド	99.7
コール・ローン等、その他	0.3

#### 種別配分等



(注1) 組入ファンド、資産別・国別・通貨別配分の各データは当ファンドの直近の決算日である2019年12月10日現在のものです。

(注2) 組入ファンド、資産別・国別・通貨別配分の各比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

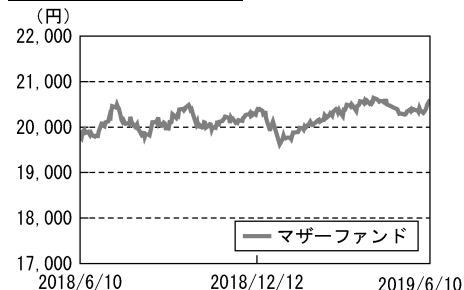
#### 純資産等

項目	第42期末 (2019年12月10日)
純資産総額	2,765,568,498円
受益権総口数	2,193,896,470口
1万口当たり基準価額	12,606円

(注) 当期における追加設定元本額は141,976,876円、同解約元本額は148,286,549円です。

## 組入ファンドの概要

### ◇ F S 海外高格付け債マザーファンド 基準価額等の推移



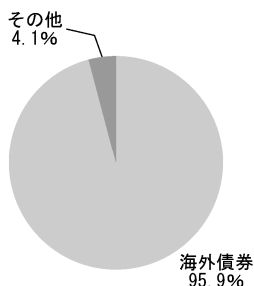
### 組入上位10銘柄

組入銘柄数：41

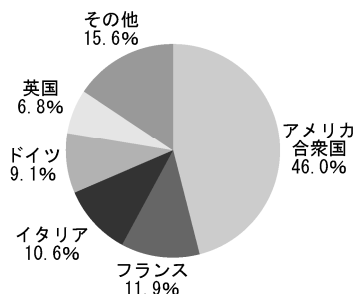
	銘柄名	クーポン	償還日	組入比率
1	2.375% US TREASURY N/B	2.375%	2027/05/15	12.2%
2	1.25% US TREASURY N/B	1.250%	2021/03/31	11.8%
3	2% US TREASURY N/B	2.000%	2024/05/31	6.3%
4	2.5% US TREASURY N/B	2.500%	2045/02/15	5.1%
5	1.2% BUONI POLIENNALI DEL TES	1.200%	2022/04/01	4.2%
6	2.75% BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	2.750%	2024/10/31	4.0%
7	1.5% BUONI POLIENNALI DEL TES	1.500%	2025/06/01	3.6%
8	3.875% US TREASURY N/B	3.875%	2040/08/15	3.6%
9	1% FRANCE (GOVT OF)	1.000%	2025/11/25	3.4%
10	5.5% AUSTRALIAN GOVT	5.500%	2023/04/21	3.1%

### 種別配分等

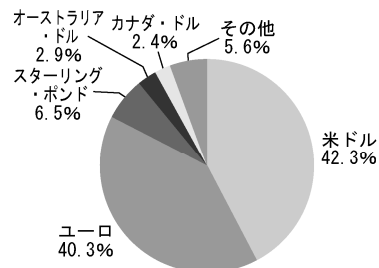
#### 資産別配分



#### 国別配分



#### 通貨別配分



### 1万口当たりの費用明細

項目	マザーファンドの直近決算期 (2018年6月11日～2019年6月10日)	
	金額(円)	比率(%)
平均基準価額：20,227円		
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	3 (3)	0.015 (0.015)
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	5 (4) (1)	0.023 (0.020) (0.003)
合計	8	0.038

(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分の各データは当ファンドの直近の決算日である2019年6月10日現在のものです。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の各比率は純資産総額、国別配分の比率はポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 基準価額の推移は当ファンドの直近の計算期間のものです。

(注4) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。